公表用（要約版）

第２回　青森市総合計画審議会　第３分科会　議事要旨

【日　　時】　令和５年11月27日（月）　13：30～14：45
【場　　所】　アップルパレス　３階　雅の間
【出 席 者】　佐々木 淳一 分科会会長、小山内 敬子 委員、
　　　　　　　佐藤 一成 委員、本田 明弘 委員　計４人
【欠 席 者】　佐々木 重光 委員、立木 祥一郎 委員　計２人
【オブザーバー・傍聴者等】なし
【関係部局】　佐藤市民部長、佐々木環境部長、加福保健部次長、清水都市整備部長、
　　　　　　　石村浪岡振興部次長、武井教育委員会事務局教育次長、三浦企業局水道部長、
　　　　　　　髙野企業局交通部次長、長内青森地域広域事務組合事務局長　計９人
【事 務 局】　白戸企画部次長、杉田企画調整課主幹、工藤企画調整課主事　計３人
【配付資料】
・次第
・各行政分野の課題（案）及び目指すべき方向性（案）
・第１回分科会の御意見のうち課題（案）に反映したもの以外の御意見の取扱いについて
・あおもり未来ミーティング意見一覧

【会議概要】
○当面のスケジュールと今後の流れを確認した後、以下の配付資料について事務局から説明。各委員が意見を出し合った。

○審議、質疑応答の概要

「文化」分野

（委員）
・目指すべき方向性（案）の１点目に「文化財を適切に保存・管理」とあるが、具体的にどこの区域等のイメージはあるのか。

（関係部局）
・地区等で限定するのではなく、縄文、文化、遺跡等を全体的に捉えた考え方をしている。

（委員）
・観光客が青森に来た際、青森に文化、遺跡があるということはいろんな情報で分かるが、どこに行けばいいのかの情報発信がもう少しあればいい。

（委員）
・例えば「文化財」といった時に、縄文、文化、遺跡の他に何かあるのか。

（関係部局）
・文化財という広い捉え方で考えている。

（委員）
・市外から来る様々な年齢層の方への案内として、文化財を分類し、それぞれを特色ごとに案内する取組をしてみたらどうか。

（委員）
・目指すべき方向性の「文教施設の老朽化が進む松原地区において」について、これは松原地区に限定されているが、本当にそこだけでいいのか。

（事務局）
・1つ目の目指すべき方向性の文化財について、全体のまちづくりの中での方向性を説明した上で、第1回分科会での追加すべき課題として、委員から「棟方志功を活用した文教地区の再整備」という意見もあったので、2つ目の目指すべき方向性で記載している。
・基本構想という市全体の今後の10年間の方向性を見ると、やはり松原地区は重要なキーワードになるので、別出しで載せている。
・いただいた意見に関しては、できるだけ方向性の文言に含められるよう、事務局として調整させていただいている。

「市民協働」分野

（委員）
・課題が3つで、目指すべき方向性が2つあるが、1対1になるわけではないのか。

（委員）
・課題であったものを整理して目指すべき方向性にしたということ。

（委員）
・資料3の未来ミーティングでもやはり「若者」がキーワードになっている。
・目指すべき方向性に「地域の個性を活かした」とあるが、青森にとっての地域の個性はどのように考えたらいいのか。

（関係部局）
・市全体として、町会が市内全域に408程度あるが、町会単位だと大きさ、世帯の数等はまちまちであり、活動についても先細ってきているなかで、高齢化による担い手不足など様々な問題がある。
・市では、町会を中心に、町会単位よりも大きいエリア単位でのまちづくり協議会を作り、

それぞれの独自性など地域に元々根ざしているものを取り上げ、共通の課題をみんなで解決していく取組を進めている。現在14のまちづくり協議会が作られ、社会奉仕活動や課題解決に向け、そのエリアの町会だけでなく、民間やNPO等様々な団体が協力して活動しており、そういったところをイメージしている。

（委員）

・青森は「港町」というところが魅力的なポイントの1つ。港町なのでいろいろな所から人が出入りする機会があるので、それと若者を増やしていきたいというところを結びつけられると非常にいい。お年寄りを中心としたソサイエティの話はもちろんあるが、そこへ若者をどうやって引っ張っていくかということが重要。

「まちづくり」分野

（委員）

・委員の意見がなかったところについても全体的に上手くまとまっている。
・あおもり未来ミーティングの中でも交通、弱者、高齢者などのキーワードがあるが、そういうところに配慮した目指すべき方向性になっていると思う。
・交通ネットワークの利便性について、歩行者や高齢者に優しいまちになると、外に出る人も増え、活気のあるような街に見える。そのようなニュアンスを入れられるといい。

（委員）

・マスコミで取り上げられている話題として、油川地区の再開発・洋上風力の基地港湾化がある。せっかくのチャンスだし、青森港は重要港湾で、これからカーボンニュートラルポートなどいろいろな計画が出てくると思うので、油川地区をそれらと同期して盛り上がるようなまちづくりをしたらどうか。

（委員）

・コンパクトプラスネットワークについては、市の立地適正化計画で、コンパクトプラスネットワークのまちづくりを進めるにあたり、4地区を都市機能誘導区域にしている。
・「文化」分野の松原地区とも関連するかもしれないが、青森駅周辺地区だけだとエリアが狭いイメージがある。もう少し広く捉えて中心市街地などのように広げて議論し、記載する必要があるのではないか。

（委員）

・クルーズ船について、現在はコロナを終えて外国人もだいぶ増えてきている。クルーズ船が到着した所から、いろいろな青森の魅力のある場所に御案内する交通手段などをきちんと丁寧に案内できるようにすると、青森はこんな魅力的な場所だよという口コミが広がったりするだろうと思うので、外国人の方への交通手段を充実させたらどうか。

（委員）

・青森港に入ってきた外国人の方々がタクシーを雇い、そのまま弘前に行って帰ってくるというパターンがよくあるということなので、もったいないと思う。

（委員）

・クルーズエリアの辺りに、もう少し案内掲示板やアクセスが分かるようなインフォメーションを付けたりすればいい。

（関係部局）

・新中央ふ頭からの交通アクセスというところがキーになってくるかと思う。関連部局と連携しながら、クルーズの寄港状況や委員の皆様から御意見頂いた利用状況、利用ニーズを鑑みて検討していきたい。

「防災・雪対策（都市基盤整備・除排雪）」分野

（委員）

・資料２の「札幌での社会実験」とは、どういうことを行っているのか。

（事務局）

・内容の詳細までは承知していなかったので、次回までに確認させていただきたい。

（委員）

・青森の１番の課題は雪。除排雪の問題は本当に難しい。目指すべき方向性に記載の「効果的、効率的な除排雪を進めていきます」という言い方くらいしか、なかなか難しいと思う。実際に、除雪する人材もだんだん高齢化しており、業者もだいぶ減ってきているため、これから担い手をどう支えていくのかというのも課題だと思う。

（委員）

・都市基盤整備・除排雪ということでの防災・雪対策であるが、この３行だけで足りるのか。

（関係部局）

・御指摘の通り、非常に重要なところであり３行ではなかなかまとめられないが、全体的な総合計画があった上で個別計画に落とし込んでいくことになる。総合計画の下に、雪対策基本計画という、自助、公助、共助でしっかり雪対策を進めていく内容の具体的な計画があるとともに、除排雪事業の実施計画を毎年度作成し、具体の取組を実施している。その中に具体の話を盛り込んでいるので、そちらで個別具体の施策を展開できればと考えている。

「環境」分野

（委員）

・どれも重要な課題であり、それについて適切に、全体的に方向性を示していると感じている。

・森林資源が多いので木の活用をできたらいいのではないかという意見について、建築的な目線で見ると、コンクリートや鉄骨の建物よりも木造の建物を増やしていけたらいいと考えている。

・目指すべき方向性に「資源の適切な利用の取組を推進します」とあるが、森はそのまま放っておくと自然が保たれず、きちんと間伐して適切に間引くことによって自然環境が守られるので、そういう意味でも利活用のニュアンスを入れてもらえるといい。

（委員）

・課題から整理した目指すべき方向性まで、バランスが取れた書き方になっていると思う。

・昨日、報道で食料自給率が 36％くらいで危機と言われていたが、エネルギー自給率は 12％程度。要はバランスである。バランスを取ることで若い人が来るようになり、そこへ地域が活性化するようなプロモートができれば 1 番いい。自然環境だけではなく、エネルギーなどのほかの面や人材も含めた内容にしてもらえるといい。

・環境だけ良ければいいという議論は少し違う気がするので、その点の書き方を工夫してほしい。

・自然環境とエネルギー、それから人材も含めてバランスよく作っていくんだという表現を入れてもらえるといい。

（委員）

・目指すべき方向性に「2050 年のカーボンニュートラルの実現に向けて」とあるが、2050 年はだいぶ先の話である。その中間年あたりにおける方向性を示してもいいのではないか。また、課題にはあるが再生可能エネルギーを方向性に入れてもいいのでは。

（関係部局）

・国の政策の中での 2050 年カーボンニュートラルという目標値を青森市も同時に進めていくということで、このような表現にしている。来年度、この総合計画と合わせて地球温暖化対策防止実行計画を策定していくことになり、その中で、中期的な進捗や施策、取組を明記していきたい。

（委員）

・先日の八甲田の風力発電の件については、仕組みとして、地域のいろんな意見を吸い上げるところが不足していたと思う。例えばゾーニングとか、地域の人たちの考えを吸い上げるような仕組みを早く作る。それも県任せではなくて市町村から作っていくというやり

方が多分１番早いと思う。

（関係部局）
・八甲田山系エリアは、複数の市町村に跨っていることもあり、現時点では、県の動向を注目しているところ。
・場合によっては、市での対応も検討する必要もあると考えている。

（委員）
・例えば、複数の市町村で一緒になって協議会を立ち上げるということはできないのか。

（関係部局）
・勉強会、連絡協議会的なものは立ち上げることはできるが、まずは県の動きを注目しているところ。

（委員）
・県境でも同じことが起こると思うがどうか。

（関係部局）
・国や県の大きな枠組みの中で、ある程度の方向性を出してもらわなければ市町村レベルではなかなか難しいということもあると思う。

（委員）
・規制は広域でかけて、例えばヒアリング機能を市町村レベルでやっていくということか。

（関係部局）
・今でも法令上はそのようになっているが、国や県で最終的な判断がされる。

その他

（委員）
・（資料２の）№6の「大工・建築士が非常に少ない。人口増に向けた市内大学への建築学科創設」の意見については、「若者」が重要な課題だと思っていて、大学を選ぶ段階で来てもらうのがタイミングとして最もいいと思っており、青森に魅力ある学びの場があるということが非常に重要だと思う。人材の育成を自分の市で行うことが大事。

（委員）
・大学も大事だが、生活していくための職業も増やさないと大学卒業後に青森から出て行ってしまう。

（委員）
・市では、しごと創造会議もやっているので、そちらのほうでしごとを増やすことについて議論されると思う。

〇今日の意見の取扱等の事務連絡を行い解散。